



群馬銀行レポート 2020

GUNMA BANK REPORT

群馬銀行のご案内

企 業 理 念

地域社会の発展を常に考え行動すること これが私たちの事業です。

私たちは地域の一員としての責任を自覚し、広く皆さまとの信頼関係を深め、地域繁栄の担い手になりたいと考えています。そのために金融サービスの向上に努め、さらに活動分野を拡げながら健全な成長を続けます。そして産業・文化の発展と豊かな生活づくりのお役に立ちたいと願っています。

お客さまとの創造的な関係を深めること これが私たちの仕事の原点です。

私たちはお客さまとの心のきずなを大切にし、お客さまにとって何が最良なのかを考え創りだしていきます。そのために何をすればよいのか、私たちの仕事はここから始まります。お客さまとともに未来を築いていく、これが私たちの願いです。

よき企業人であるためによき市民であること これが私たちの活動の基本です。

私たちはよき市民でありたいと思います。それが皆さまから共感と信頼を得られる第一歩となります。そのために良識を大切にし、社会における役割を積極的に果たしてまいります。私たちはよき市民として日々の仕事に取り組んでいきます。

一人ひとりの顔が見える表情豊かな組織であること これが私たちの大切にしている企業風土です。

私たちは個性を生かした活力あふれる組織を創ります。そのためにお互いの人間性を尊重し、十分な能力発揮の機会と的確な評価を大切にします。そして働きがいのある企業風土を培ってまいります。

目 次

頭取メッセージ.....	2
2019 年中期経営計画「Innovation 新次元」～価値実現へ向けて～	6
群馬銀行の活動.....	7
SDGs への取組み	10
財務情報ハイライト.....	14
会社概要.....	16



代表取締役 会長
齋藤 一雄

代表取締役 頭取
深井 彰彦

頭取メッセージ



困難な局面にこそ
地域金融機関としての真価が
試される時であると認識し、
お客さま支援に
全行を挙げて取組む。
環境急変を前向きに捉え、
収益構造の抜本的転換や
さまざまな課題に手を打ち、
強固な経営体質を構築していく。

群馬銀行
代表取締役 頭取
深井 彰彦

はじめに

最近の経済情勢をみますと、緩やかな回復基調で推移してきた国内景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により急速に悪化し、極めて厳しい状況に一変しました。

金融機関を取り巻く環境も、マイナス金利政策の長期化によって貸出金や有価証券運用利回りの縮小が続いていたところに、感染症の影響による世界的な金融資本市場の変動が重なり、更に厳しさを増しております。こうした世界的な経済情勢の急速な変化は、2008年のリーマン・ショックをも上回る影響を国内外に及ぼしつつあり、地域経済にも著しい影響をもたらしています。

私たちは、社会や経済の安定に不可欠なインフラの一翼を担っており、いかなる状況においても金融仲介機能を十分に発揮し地域経済を支えていく使命を帯びています。このような困難な局面にこそ

地域金融機関としての真価が試される時であると認識し、お客さまの支援に全行を挙げて取組んでおります。

人口動態をはじめとした地域経済社会の構造変化や、デジタルイゼーションの進展によるライフスタイルやビジネスモデルの変化は、感染症の世界的な流行と相まって、変化のスピードをさらに加速させています。

このような環境の急激な変化を前向きに捉え、地域経済活性化への取組みや収益構造の抜本的転換、事業承継や相続関連などの顕在化するニーズへの対応、デジタルトランスフォーメーションへの取組みなどの諸課題に手を打ち、強固な経営体質を構築していきたいと考えています。

経営課題へ対処するために

これまで私たちは、地域金融機関として預金や貸出を中心に事業を展開してきました。しかしながら、先に述べた経営課題に対処するには、取組むべき事業を再定義する必要があると考えています。一度、既存のビジネスから目線を離して、当行のコアコンピタンス、つまり「お客さまに対して価値を提供することができる、他社には真似のできない、私たちならではの中核的な強み」を捉え直すことが有効だと考えています。当行の経営資源を、正しく理解・定義した上で有効に活用することができれば、新たな価値を創造し、お客さまや社会に貢献できると考えています。

では、私たちのコアコンピタンスとは何か。

まずは、お客さまとのネットワークとリレーションに基づく「情報力」があります。当行はこれまで、地理的なマーケットの拡充に積極的に取組み、一定の成果を上げることができました。私たちが今まで築いてきた、県内外の3万4,000先を超える法人・個人の事業者のお客さまとのネットワークは一朝一夕にできるものではなく、そこから得られる情報は、従来からの預金や貸出ビジネスのみならず、新たなビジネスの起点にもなります。

また当行には、これまで培ってきた「提案力」があります。

当行は、コンサルティング営業の強化を営業戦略の柱として、行員の提案力強化に取組んできました。個人のお客さまに対しては、各営業店の支店長を講師とした資産形成等に関するセミナーを年間600回以上開催するとともに、「ぐんぎん証券」との銀証連携の強化によってお客さまの多様なニーズに応じた最適な提案に努めています。

事業者のお客さまに向けては、「ぐんぎんコンサルティング」の設立や「人材紹介業務」の開始などにより経営課題の解決に力を注いでおり、2019年度は事業性評価の実施によって明らかになったお客さまの経営課題等のうち、739件を解決まで導くことができました。

こういったコアコンピタンスを基盤に、例えば、事業承継ビジネスや相続関連ビジネスなど、お客さまや地域のニーズが大きく、今後も事業規模の拡大や収益化が十分に可能な分野に注力したいと考えています。

ただし、どの要素が有効かは市場環境や競争環境によっても異なり、築いた競争優位も市場の環境変化とともに陳腐化するため、コアコンピタンスの再定義や新たな能力の育成などの努力は欠かせません。

頭取メッセージ

中期経営計画「Innovation 新次元」

2019年4月にスタートした、2022年3月までの3か年を計画期間とする中期経営計画「Innovation 新次元～価値実現へ向けて～」は、これまでに述べた考えを体現したものです。

当行では、過去6年間に亘る2回の中期経営計画において、「価値ある提案」を基本コンセプトに、当行ならではの提案を行いサポートすることで、地域とお客さまとともに成長することをめざしてきました。新しい中期経営計画では、「価値ある提案」を礎に、その提案価値を実現させることに主眼を置き、めざす企業像を「金融サービスの革新により、お客さまニーズに応え、価値を実現する地域金融グループ」としています。

めざす企業像を実現するための基本方針には、「3つの改革（プロセス・チャネル・人材）による経営プラットフォームの転換」と「ビジネスモデルの進化による高度な価値実現」を掲げました。新型コロナウイルス感染症による環境の急変も踏まえ、計画した取組みを更に加速・深化させていきたいと考えています。

中期経営計画で掲げた連結計数目標は、1年目の2020年3月期決算においては、概ね計画通りに進捗することができました。ただし、収益構造の転換に向けて拡大に注力してきた非金利業務利益については、ぐんぎん証券やぐんぎんリースなどの子会社が順調であったものの、銀行本体が伸び悩みました。

2019年度は、事業承継支援・相続関連サービスともにヒアリングやプレゼンテーションを通して、お客さまごとに現状の課題やめざすべきゴールを共有することに重点を置いた活動を展開してきました。2020年度は、専担者の増員などによって整備した態勢・能力を存分に発揮し、グループ会社機能も最大限活用しながら、お客さまの個々の課題やニーズに応じた最適なソリューションを具体的に実現させていくフェーズにしたいと考えています。お客さまと共有したゴールからバックキャストによりタイムラインをしっかりと引き、それに対応して必要なステップが適切に進捗するプロセスを積み上げ、お客さまの課題解決を実現し、当行の収益へも結実させていきます。

また、それらを可能とする経営プラットフォームへの転換に向けて「3つの改革」についてもそのスピードを早めていきたいと考えています。新型コロナウイルス感染症の影響によって私たちの生活様式やマインド、社会環境も一変し、オンラインでのコミュニケーションやペーパーレス、印鑑レスなどが急速に普及することとなりました。この機会に計画でも掲げている「DigiCal 戦略」を加速させ、インターネットバンキングやアプリ、WEB 完結サービスの利便性向上や WEB を活用したお客さまとのコミュニケーションの実践などにより、お客さま接点のデジタルシフトを進めていきます。



ガバナンス等の強化と資本政策

ガバナンス態勢の強化やリスク・収益・資本の一体的管理・運用に向けた取組みについてもさらに前進させていきます。

これまでも、独立社外取締役と代表取締役で組織する指名諮問委員会や報酬諮問委員会の設置をはじめ、譲渡制限付株式報酬制度および業績連動型株式報酬制度を導入するなど、ガバナンス態勢の強化に努めてまいりました。2020年6月には社外取締役を1名増員するとともに、

新たな社外監査役を迎えたことで、より実効性の高いガバナンス態勢を構築することができました。取締役会の構成も 1/3 以上が社外取締役となり、企業経営や金融、法務などそれぞれの有する専門性やジェンダーの面で、バランスの取れた態勢になりました。

経営管理の枠組みとしては、限られた資本と経営資源を最大限有効活用し、リスクとリターンの最適化を図る手法である「リスクアペタイト・フレームワーク」の構築と活用を進めます。金融機関にとって、持続可能なビジネスモデルの構築に必要なものだと思います。経営体力に即した形で、収益のために必要なリスクは進んで受け入れていくとともに、営業現場においても、リスクに見合った収益を確保するという貸出推進を定着させ、収益性の高い貸出金ポートフォリオの構築をめざしていきます。

株主還元については、財務体質の強化に努めるとともに、安定的な配当を継続する基本方針の下、業績連動型の株主還元を実施する方針です。なお、配当と自己株式取得額を合わせた株主還元率は、当面、単体当期純利益の40%を目安としています。

また、さまざまな環境・社会課題が深刻になる中、持続可能な開発目標（SDGs）をはじめとした取組みに、主体的な役割を發揮していくことが重要です。当行でも、2019年2月に「群馬銀行グループ SDGs 宣言」を制定し、企業理念や SDGs 宣言にもとづく事業活動を通じて環境・社会課題解決への貢献をめざしています。2020年度には、新たに総合企画部内に「SDGs & ESG 統括室」を設置するとともに、2030年度における温室効果ガス排出量の26%以上削減※や紙使用量40%削減※といった数値目標も定め、更に取組みを強化していきます。

そうした取組みや中期経営計画の諸施策を展開することで、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努め、地域社会、お客さま、従業員ならびに株主・投資家の皆さまなど、各ステークホルダーの方々への責任を果たしていきたいと考えております。

※ 2013 年度比

おわりに

2008年のリーマン・ショック当時、私は、営業店の支店長として、地域のお客さまの支援に全力を尽くしました。その時、私たち地域金融機関は地域経済のインフラとして欠かせない存在であることを確信し、その果たすべき責任や役割の大きさを学びました。

今また、新型コロナウイルス感染症によって、新たな危機が到来しています。ただし、リーマン・ショックとは異なり、今回の危機は、収束後の環境が、それ以前の社会に戻るのではなく、これまでの生活様式や常識も含め全く新しい社会へと一挙に変えてしまうインパクトを有しています。よって、地域のお客さまへの支援は、資金繰りなどの金融面にとどまらず、ビジネスモデルの変革や転換を含めた幅広いサポートとする必要があります。

今回の危機を乗り越えるためにも、私たちは、これまで申しあげてきたことに着実に取組んでまいります。そして、新たな次元のビジネスモデルへ転換し、お客さまとともに新たな地域社会を創造していきます。

最後になりますが、皆さまには、今後とも温かいご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2020年7月
代表取締役 頭取

深井 彰彦

2019 年中期経営計画

「Innovation 新次元」～価値実現へ向けて～

《計画期間：2019 年 4 月から 2022 年 3 月までの 3 年間》

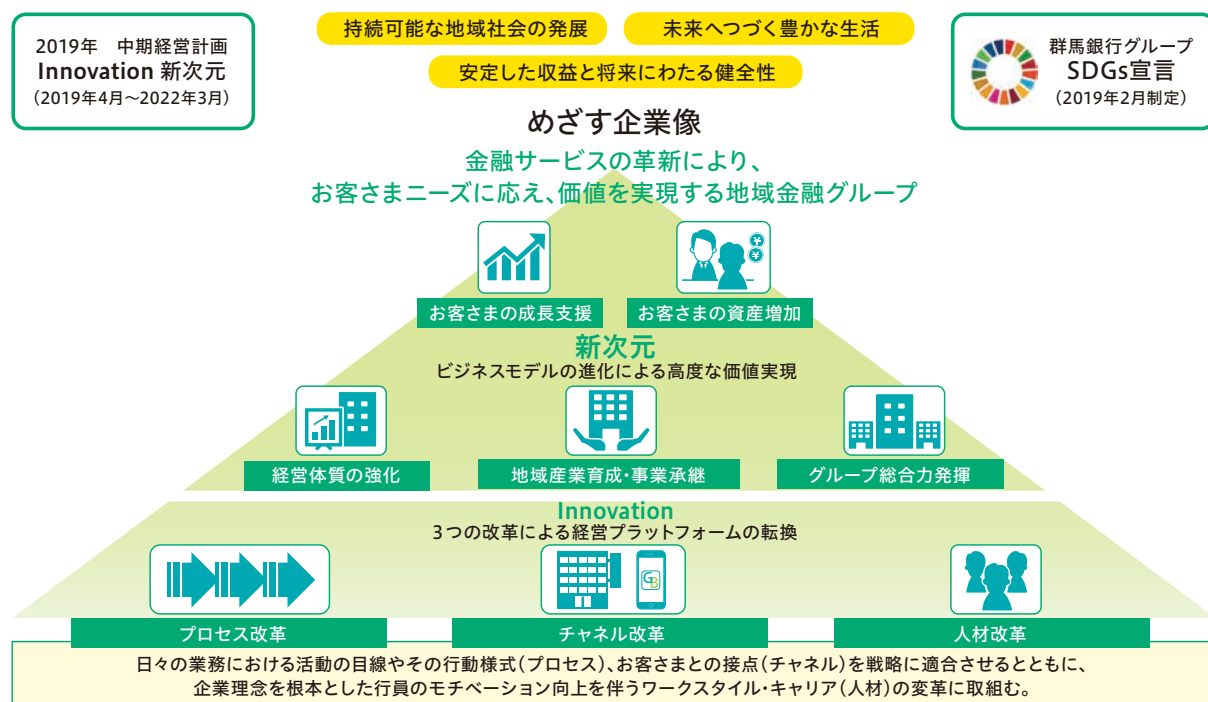
■ 考え方について

当行は、「2013 年 中期経営計画 V-プラン ～価値提案銀行への進化～」から「2016 年 中期経営計画 Value for Tomorrow ～価値ある提案を明日に向けて～」にわたる 6 年間に、「価値ある提案」を基本コンセプトに、お客さまへ当行ならではの提案を行いサポートすることで、地域とお客さまとともに成長することをめざしてきました。

本計画では、社会情勢の変化を踏まえ、これまで 6 年間取り組んできた「価値ある提案」を礎として、その提案価値を実現することに主眼を置き、提供するサービスの革新により、「価値を実現する金融グループ」への発展をめざし、名称を「Innovation 新次元」としました。

本計画は「SDGs 宣言」の考え方にも基づいて策定されており、本計画の達成に向け「価値の実現」に取り組むことで、持続可能な地域社会の発展や未来に続く豊かな暮らしを実現し、当行の健全な発展につなげていきます。

《中期経営計画骨子》



■ めざす企業像と基本方針

■ めざす企業像

金融サービスの革新により、お客さまニーズに応え、価値を実現する地域金融グループ

■ 2つの基本方針

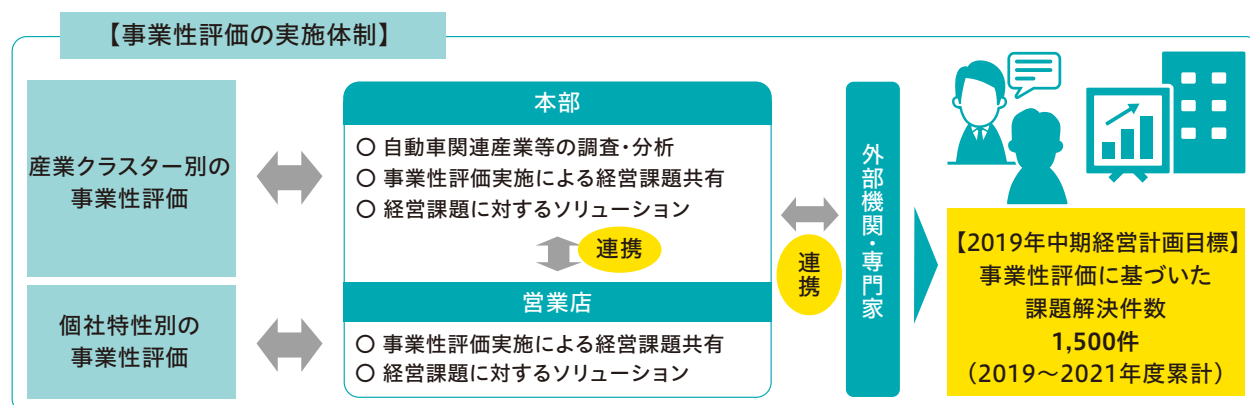
Innovation	新次元
3つの改革による経営プラットフォームの転換 ①私たちの日々の業務における活動の目線やその行動様式（プロセス）、②お客さまとの接点（チャネル）、そして③企業理念を根本とした行員のモチベーション向上を伴うワークスタイル・キャリア（人材）の3つの変革（Innovation）に取組み、新たな戦略に実効性を伴わせるための構造改革を行います。	ビジネスモデルの進化による高度な価値実現 これまで培ってきた「価値ある提案」を引き継ぎつつ、従来からの金融サービスの延長ではなく、個々のお客さまの真のニーズに応えられる質の高いコンサルティングを実践することで、お客さまにとって最適な「価値実現」を追求するとともに、収益構造の抜本的な転換（新次元）をめざします。

群馬銀行の活動

法人のお客さまへの取組み

(1) 事業性評価に基づく課題解決

○当行では、法人のお客さまの事業拡大のみならず、人事、営業、リスク管理などさまざまな顕在化している経営課題や内在する経営課題の克服に向け、最適なソリューション提案（価値ある提案）を行い、その価値を実現して初めて、お客さまとの共通価値を創造できると考えています。そのために、経営者等との対話を重ね、経営課題に関する認識を共有するための「事業性評価」の取組みを強化しています。

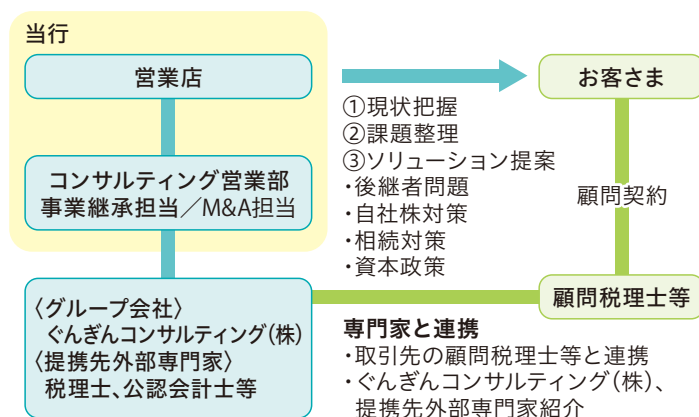


(2) 事業承継

○経営者の高齢化や後継者問題が懸念されるなか、お客さまの事業承継についての経営課題は、技術の伝承・サプライチェーンの維持・雇用の継続など、地域経済に大きな影響を与えます。これまでも、お客さまとの面談を通じ、①現状把握 ②課題整理 ③ソリューション提案等の各種事業承継支援を行ってまいりましたが、中小企業に対する事業承継支援が従来にも増して地域金融機関に求められているなか、2018年度からは全営業店でお客さまの事業承継支援に取り組んでいます。

○営業店とコンサルティング営業部、また100%子会社のぐんぎんコンサルティング(株)が一体となり、課題整理やソリューション提案等を通じ、お客さまの課題解決に向けた支援を実施しています。また、お客さまと専門家が個別相談できる場の提供等を通じ、課題解決に努めています。

【活動スキーム】



【個別相談会】

セミナー名	開催時期	開催場所	参加者累計
事業承継 「個別相談会」	19/5・9、 20/3	県内 2 県外 2	企業 20 社

群馬銀行の活動

(3) M&A

○当行単独での支援や提携する外部専門家との連携により、2019年度中は13社の後継者不在のお取引先にM&Aによる事業承継の支援を行いました。また、後継者未定の中小企業、小規模事業者等の事業承継課題解決支援を加速させるため、新たに以下の外部機関と「M&Aに係る業務提携契約」を締結しました。

2019年7月 ほけんの窓口グループ ※本内容に関する左記グループと金融機関との提携は全国初

2020年3月 県内3信用金庫（高崎信用金庫、桐生信用金庫、しのめ信用金庫）



M&Aを活用した成長戦略セミナー

(4) ビジネスマッチング

○取引先企業の生産性向上等に資するよう、グループ会社機能の提供、当行の外部連携先の紹介、販路開拓支援等を積極的に展開しています。また、2019年9月より「ぐんぎんビジネスマッチングシステム」を導入し、お取引先企業のニーズ案件情報をデータベース化することで、より高度なビジネスマッチングの実現を図っています。

(5) 私募債発行

○資金調達支援とともに、お客さまのSDGs達成への貢献ニーズに応えるため、ぐんぎんSDGs私募債等を取扱っています。SDGs私募債は、当行が受領する私募債発行手数料の一部を、学校や自治体等へ、またはSDGsの取組みを行う団体等へ寄付・寄贈しています。

2020年3月末 発行累計額 729億円（環境配慮型および地方創生私募債を含む）

寄付・寄贈累計 348件 62,052千円（地方創生私募債を含む）



子育てセンターへ寄贈した「創作木製遊具」

(6) ぐんぎんコンサルティング

○お客さまの経営課題に対するコンサルティングにおいて、高い専門性を要する場合や複雑で難度の高い取組みになる場合、専門性をもつぐんぎんコンサルティングの各コンサルタントが最適なソリューションを提案し、課題解決に向けた実行支援を行っています。



■ 個人のお客さまへの取組み

(1) 預かり金融資産

○お客さまの安定的な資産形成の実現

バランス運用型のコアファンドを拡充したほか、低リスク志向のお客さま向けに元本確保型ファンドを取扱いました。

○長期・積立・分散投資によるお客さまの資産形成支援

長期間の税制優遇が得られる「つみたてNISA」の専用商品を拡充しました。また、積立商品キャンペーンを実施しました。

○人生100年時代への対応

資産運用でお金の寿命を延ばしながら、定率で分配金を受け取る機能を持った投資信託商品や長生きリスクに備える生命保険商品を導入しました。

○休日営業拠点「個人相談プラザ」の拡充

2019年10月に「高崎」「EAST」を加え、「前橋」を含めた3店舗で平日にご来店いただくことが難しい資産形成層のお客さまの資産運用ニーズや保険相談ニーズにお応えしています。



プラザ前橋（前橋南モール出張所）

投資信託

分散投資でリスクを抑えながら、中長期で安定的な運用成果が期待できるバランス型運用のコアファンドの推進を継続していきます。また、時間分散効果が得られる積立投信の推進を強化することでお客さまの安定的な資産形成を支援します。

生命保険

公的年金保険を補完する終身年金保険等によって人生100年時代における長生きリスクを懸念されるお客さまのニーズに対応します。また、ご提案にあたっては、相続・贈与等の対策も含めた総合的なコンサルティングを行っていきます。

債券（金融商品仲介）

外国債券や私募仕組債などのご提案を通して、お客さまの幅広い資産運用ニーズにお応えします。ぐんぎん証券との連携強化によって、多様な運用ニーズを抱えるお客さまへの提案力を強化していきます。

(2) 相続関連業務

○相続関連業務の本部専担者を増員し、態勢を整備するとともに、相続に関するお客さまの潜在的なニーズを捉え、遺言信託や遺産整理業務などに取組んでいきます。

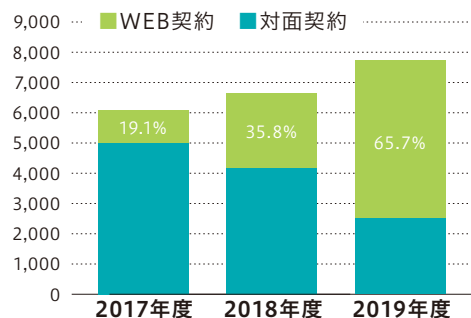
(3) 無担保消費者ローン

○2018年11月より無担保消費者ローンにおいて、WEB完結サービスの対象商品を拡大し、マイカーローンや教育ローン等で「WEB契約」を行えるようにしました。

【WEB完結サービスの対象商品（証書貸付）】



【WEB契約割合の推移（契約件数ベース）】



○SNSに無担保消費者ローンの広告を掲載するなど、多様なチャネルにおいて広告を行い取引の拡大を図りました。

○多様化するお客さまのニーズにお応えするために、各種ローンの商品性の改定を行いました。

たとえば、マイカーローンの借入上限の引上げ（500万円→1,000万円）や完済時年齢の引上げ（71歳未満→76歳未満）、勤続年数の短い方（1年未満）を取扱対象とするなどの変更をしています。

SDGsへの取り組み

「群馬銀行グループSDGs宣言」について

SDGs 宣言の考え方

当行では、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）※」の達成に向けた取り組みをグループ一体となって推進するため、2019年2月に「群馬銀行グループSDGs宣言」を制定・公表しました。

当行グループは、企業理念に「地域社会の発展を常に考え行動すること これが私たちの事業です」と掲げており、社会・環境課題等のSDGs達成に向け、事業活動を通じて、主体的な取り組みを進めたいと考えています。

SDGs宣言では、こうした考え方のもとでSDGs17目標のうち、当行グループの事業内容や営業エリアなどから、特に貢献が可能な7目標を中心に重点課題と取組方針を定めています。

SDGs宣言に基づき、事業活動を通じた社会・環境課題等への取り組みを更に強化し、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めます。また、地域のお客さまにも広くSDGsの啓蒙・普及を図るとともに、SDGs達成に貢献するお客さま等を支援することにより、地域全体で持続可能な社会の実現に向けて取組みたいと考えています。



※ SDGs（Sustainable Development Goals）とは
2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」で掲げられた17の目標（ゴール）。2030年までに貧困や飢餓撲滅、ジェンダー平等などの社会的課題や環境問題を解決し、持続可能な社会を実現することをめざしている。



※群馬銀行グループSDGs宣言は
こちらよりご覧いただけます。



<https://www.gunmabank.co.jp/about/sdgs/index.html>

SDGs 宣言と中期経営計画

2019年4月にスタートした「2019年中期経営計画『Innovation 新次元』～価値実現へ向けて～」は、このようなSDGs宣言の考え方をもとに策定しました。当行グループが、中期経営計画の達成に向けて取組むことで、持続可能な地域社会の発展や未来へつづく豊かなくらしを実現し、当行グループの安定した収益と将来にわたる健全性へとつなげていくことをめざしています。

企業理念	地域社会の発展を常に考え行動すること これが私たちの事業です
SDGs 宣言	私たちは、地域社会の発展を常に考えた事業活動を通じて SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めてまいります
中期経営計画「Innovation 新次元」 【めざす企業像】	金融サービスの革新により、お客さまニーズに応え、価値を実現する 地域金融グループ

「群馬銀行グループSDGs宣言」達成に向けた新たな取組み

SDGs宣言では、当行グループの事業内容や営業エリアから、特に貢献が可能な7つの目標を中心に4つの重点課題を定め、事業活動を通じた社会・環境課題等への取組みを進めています。SDGs宣言の考え方をもとに策定した中期経営計画における各施策に取組むとともに、課題解決に向けた新たな取組みを進めることで、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に貢献していきたいと考えています。



群馬銀行グループSDGs宣言 (GB Sustainability Policy 2030)

私たちは、地域社会の発展を常に考えた事業活動の推進を通じて、
SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、
持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めてまいります。

< 重点課題 >

1. 地域経済の持続的発展

2. 地球環境の保全と創造

3. 多様な人材の活躍推進

4. パートナーシップの推進

「SDGs & ESG統括室」の新設

2020年6月、SDGs達成に向けた取組みをよりステップアップかつ加速させるために、当グループのSDGsへの取組みを推進・統括する部署として、総合企画部内に「SDGs & ESG統括室」を新設しました。

今後も、当室を中心に、当行グループ一体となった取組みを着実に進めていきたいと考えています。

温室効果ガス排出量の削減目標および紙使用量における削減目標設定

SDGs宣言の重点課題の一つである、「地球環境の保全と創造」に向けた新たな取組みとして、当行の温室効果ガス排出量の削減目標を設定しました。また、本取組みの一環として紙の使用量における削減目標を設定し、従来より課題認識していた、紙に依存した業務を見直し、デジタル化によるさらなるペーパーレス化をめざしていきます。

温室効果ガス排出量削減目標

2025年度	2013年度比 23%以上削減
2030年度	2013年度比 26%以上削減

※排出係数の増減の影響を排除する為、電気の排出係数を2013年度の計数にて固定して算出。

※温室効果ガス排出量の算出範囲は、群馬銀行国内拠点におけるスコープ1、スコープ2、スコープ3の一部

紙（コピー用紙）の使用量削減目標

2025年度	2013年度比 30%削減
2030年度	2013年度比 40%削減

「TCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）」提言への賛同を表明

近年、世界各国で異常気象や大規模な災害等による被害が甚大化するなかで、世界全体で気候変動への対応を進めていく動きが広がっています。また、企業において、気候変動のリスクや機会は、企業の財務情報や戦略にも影響を及ぼすことから、情報開示の充実が求められています。

このようななかで、当行は、2020年7月にTCFDの提言への賛同を表明しました。今後、気候関連リスクおよび機会に関して、TCFDの提言を踏まえた情報開示の充実を図っていきます。

※TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)は、2015年、G20の財務大臣・中央銀行総裁からの要請を受け、金融安定理事会(FSB)が設立した民間主導による気候関連財務情報の開示に関するタスクフォース。2017年、最終報告書を公表し、企業等に対し気候変動関連リスクおよび機会について提言に沿った情報開示を推奨している。

SDGsへの取り組み

環境への取り組み

「ぐんぎんの森」の整備活動

環境保全活動の一環として、群馬県と締結した「県有林整備パートナー事業実施協定」により指定された森林を「ぐんぎんの森」と命名し、その整備・保全活動に取り組んでいます。

新入行員研修には森林整備体験を組み込み、森林の整備・保護に関する行員教育を実施しています。

(2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施)



環境財団の活動

快適で健全な環境の整備向上をめざして設立した公益財団法人群馬銀行環境財団では、環境保全および環境の調査・研究に対する啓発・助成活動に取り組んでいます。

啓発活動の一環として、2019年8月には、小学生を対象に地球温暖化などの環境問題について体験学習を行う「エコ・キッズ・キャンプ in 赤城山」を、また9月、10月には、中学生を対象に渡良瀬川の源流や旧足尾銅山を訪ね、環境学習、植樹体験などを通じ自然環境を守ることの大切さを学習する「環境探検隊」を実施しました。

助成活動としては、2019年11月、群馬県内の小・中学校や高等学校の中から環境改善や保全について実践的で優れた活動を行った14校を「群馬銀行環境財団教育賞」として表彰しました。また、2020年3月には、自然環境の保全活動や調査研究に優れた業績をあげた7団体を「群馬銀行環境財団賞」として表彰しました。



エコ・キッズ・キャンプ



環境探検隊



教育賞：「自然スクール(ヤマメの放流)」(神流町立万場小学校)

地方銀行初のグリーンボンド発行

当行は、2019年11月に地方銀行では国内初の発行となるグリーンボンドを発行しました。

「群馬銀行グループSDGs宣言」では、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に向けて「地球環境の保全と創造」を重点課題の1つと位置づけています。環境保全や美しい環境の創造に取り組むお客さまを支援するとともに、当行のSDGs等に対する積極的な取り組みについて幅広くステークホルダーの皆さまに認知していただくために他の地方銀行に先駆けてグリーンボンドを発行しました。

グリーンボンドの取り組みが高く評価されました。



環境省
第1回 ESG ファイナンス・アワード
銅賞



環境金融機構
第5回サステナブルファイナンス大賞
地域金融賞



社会貢献活動への取組み

文化遺産の保護活動を支援する投資信託の販売

当行と委託会社が受領する信託報酬の一部を世界文化遺産「富岡製糸場・絹産業遺産群」の保護活動のために寄付を行う投資信託「富岡製糸場・絹産業遺産群保護活動応援ファンド 愛称：群馬の絹遺産」を取扱っています。



芸術・文化活動への支援

当行は、群馬交響楽団に対して、定期演奏会を協賛するなど、その活動を支援しています。

なお、群馬交響楽団は、地域社会に密着した芸術活動を行っており、定期演奏会のほか、小中学生を対象とした移動音楽教室を開催するなど、地方における音楽文化の向上に貢献しています。



スポーツ活動への支援

バレーボールのVリーグ女子2部（V2）に参戦している「群馬銀行グリーンウイングス」は、18勝3敗の好成績で2位以下に大差をつけてV2リーグ初優勝を飾りました。その後行われたV1チームとの入替戦では惜しくも敗れ、悲願のV1昇格は持越しとなりましたが大健闘を見せてくれました。

今後もこのVリーグのほか国体への出場をめざして活動していくとともに、バレーボール教室などを通して地域社会への貢献活動も積極的に行っていきます。



多くの行員が各地区で開催されるマラソン大会やスポーツイベントの運営にボランティアとして参加しています。

「ぐんまマラソン（2019年11月3日開催）」では、55名の行員がボランティア参加し、15,000人のランナーと心地よい汗を流しました。



金融経済教育への支援

高校生が楽しみながら金融経済に触れ、金融知力を身につける機会を提供するため全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」の群馬大会を開催しています。

群馬県では8回目となる今回は25チーム50名が参加しました。筆記と早押クイズの合計点上位6チームが決勝へ進み、知識と戦略を競うボードクイズを制した中央中等教育学校「GYM」が優勝に輝きました。

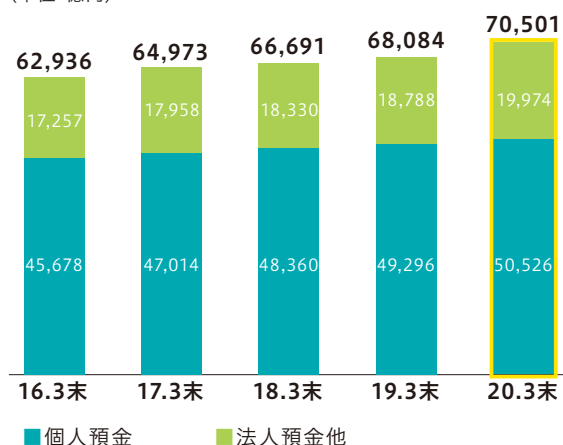


群馬大会に参加した総勢50名の高校生

財務情報ハイライト

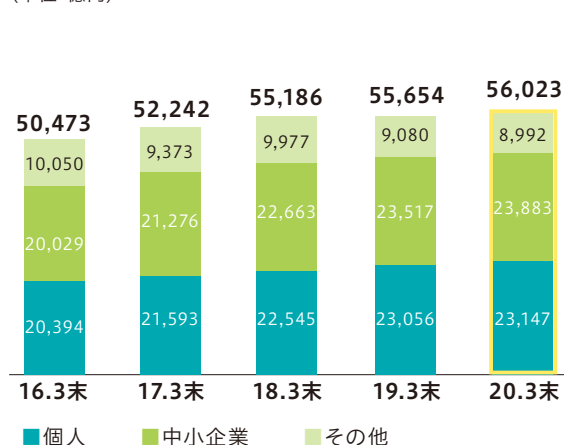
預金残高
(単位:億円)

2020年3月末残高 7.0兆円
(地方銀行64行中10位)



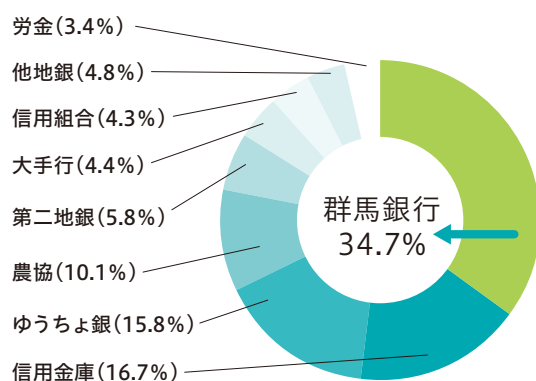
貸出金残高
(単位:億円)

2020年3月末残高 5.6兆円
(地方銀行64行中10位)



群馬県内の預貯金シェア

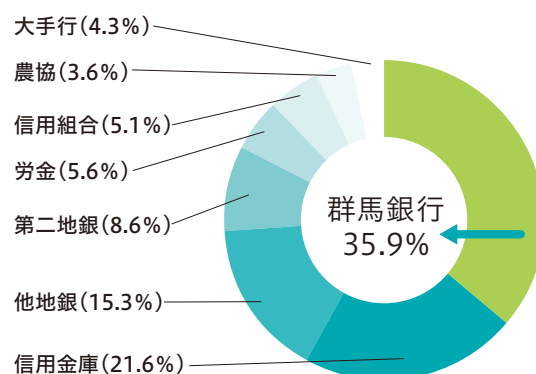
(2019年3月末)



(出所)金融ジャーナル増刊号「金融マップ」2020年版

群馬県内の貸出金シェア

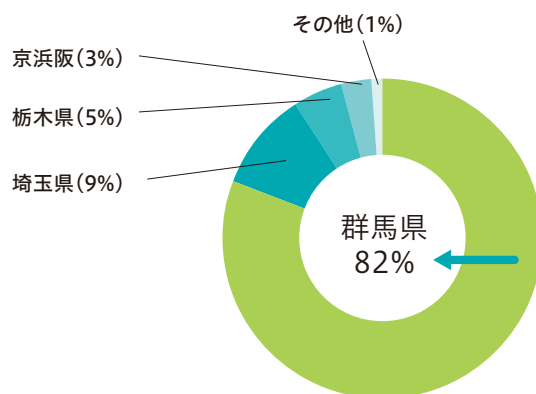
(2019年3月末)



(出所)金融ジャーナル増刊号「金融マップ」2020年版

預金残高の地域別内訳

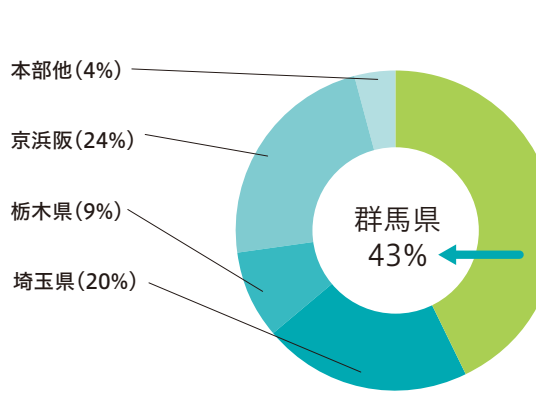
(2020年3月末)



(注)国内店勘定の内訳

貸出金残高の地域別内訳

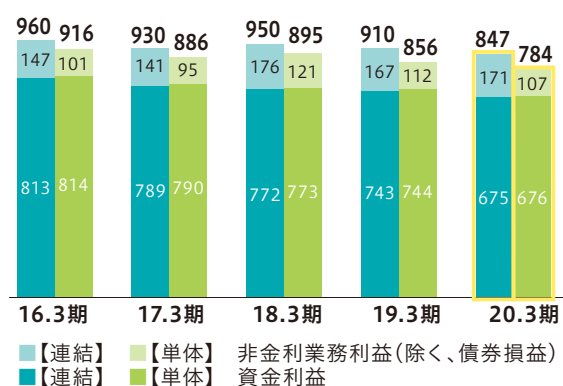
(2020年3月末)



(注)国内店勘定の内訳

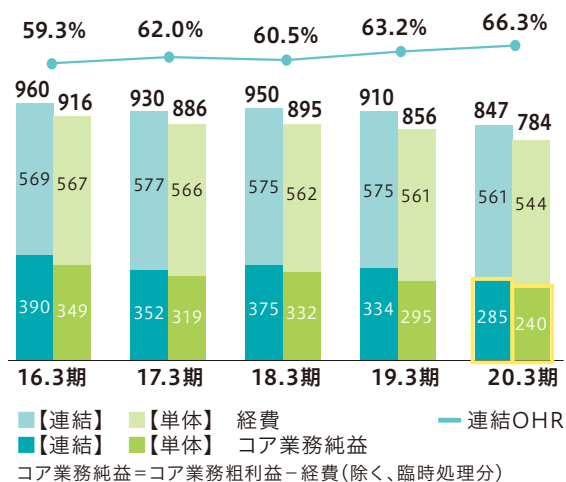
コア業務粗利益の内訳

(単位:億円)



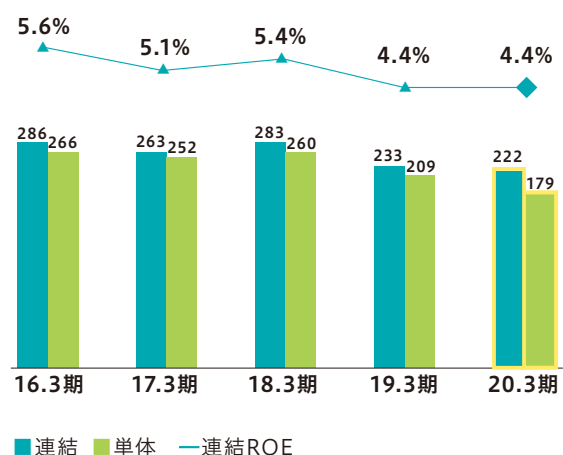
コア業務純益

(単位:億円)



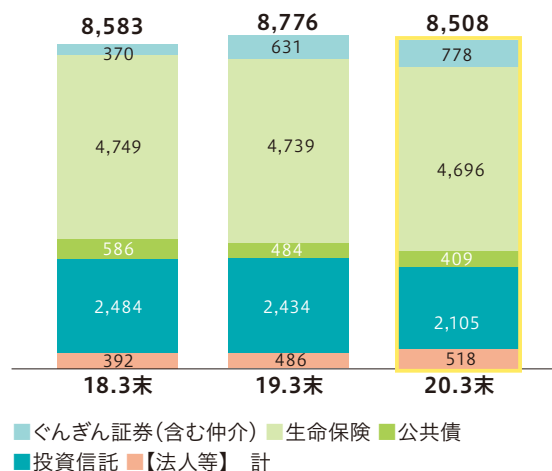
当期純利益

(単位:億円)

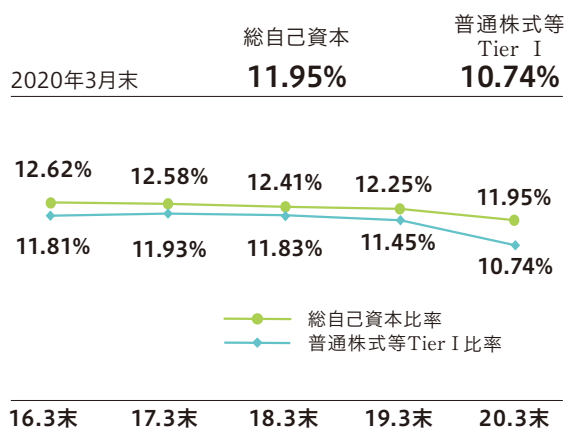


預かり金融資産残高(含む、ぐんぎん証券)

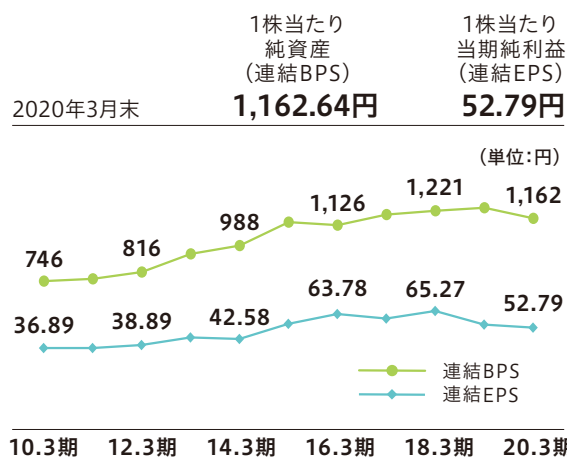
(単位:億円)



連結自己資本比率(国際統一基準)



1株当たりの指標(連結)



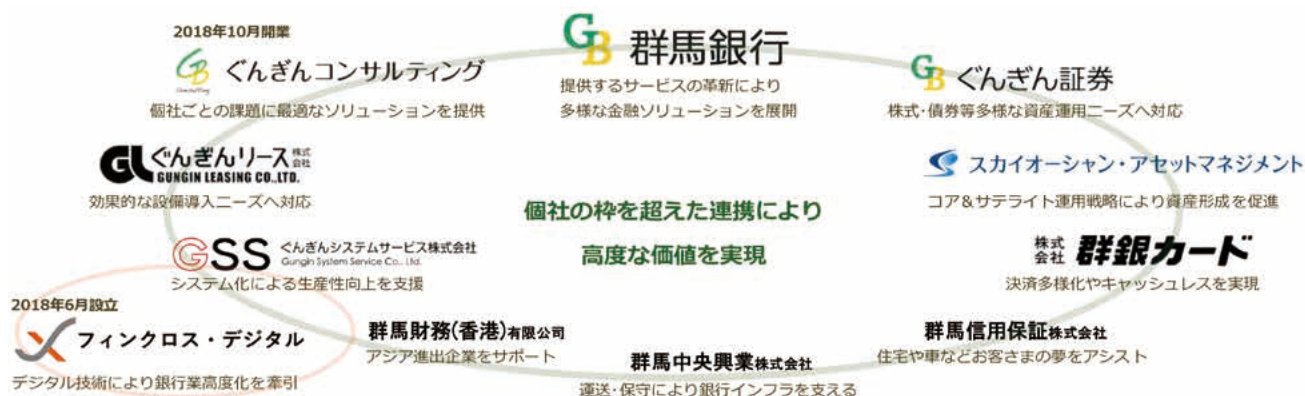
会社概要

名 称	株式会社群馬銀行 (The Gunma Bank, Ltd.)	(2020 年 3 月末現在)
設 立	1932 年 9 月	
本店所在地	群馬県前橋市元総社町 194 番地	総資産 8 兆 4,031 億円
資本金	486 億円	預 金 7 兆 0,501 億円
従業員数	3,030 人 (除く、臨時雇用)	貸出金 5 兆 6,023 億円
拠点数	国内 157 店舗 (群馬県内 109、県外 48) 海外 1 店舗 (ニューヨーク) 2 事務所 (上海、バンコク)	純資産 4,710 億円 総自己資本比率 (国際統一基準) 連結 11.95%、単体 11.57%
子会社	国内 7 社 海外 1 社 (香港)	格 付 日本格付研究所 (JCR) AA 格付投資情報センター (R&I) A+ ムーディーズ (Moody's) A3 スタンダード & プアーズ (S&P) A-
関連会社	国内 1 社	

(注) 連結従業員数 3,159 人 (群馬銀行単体 2,960 人、子会社等 199 人)
なお群馬銀行単体 2,960 人は、「海外現地採用および受入出向者」を含み、「出向者」等を除いた就業ベースの従業員数。

当行グループの概要

当行グループは、当行、連結子会社 6 社、持分法適用の非連結子会社 2 社および持分法適用の関連会社 1 社で構成され、銀行業を中心にリース業などの幅広い金融商品・サービスを提供しています。



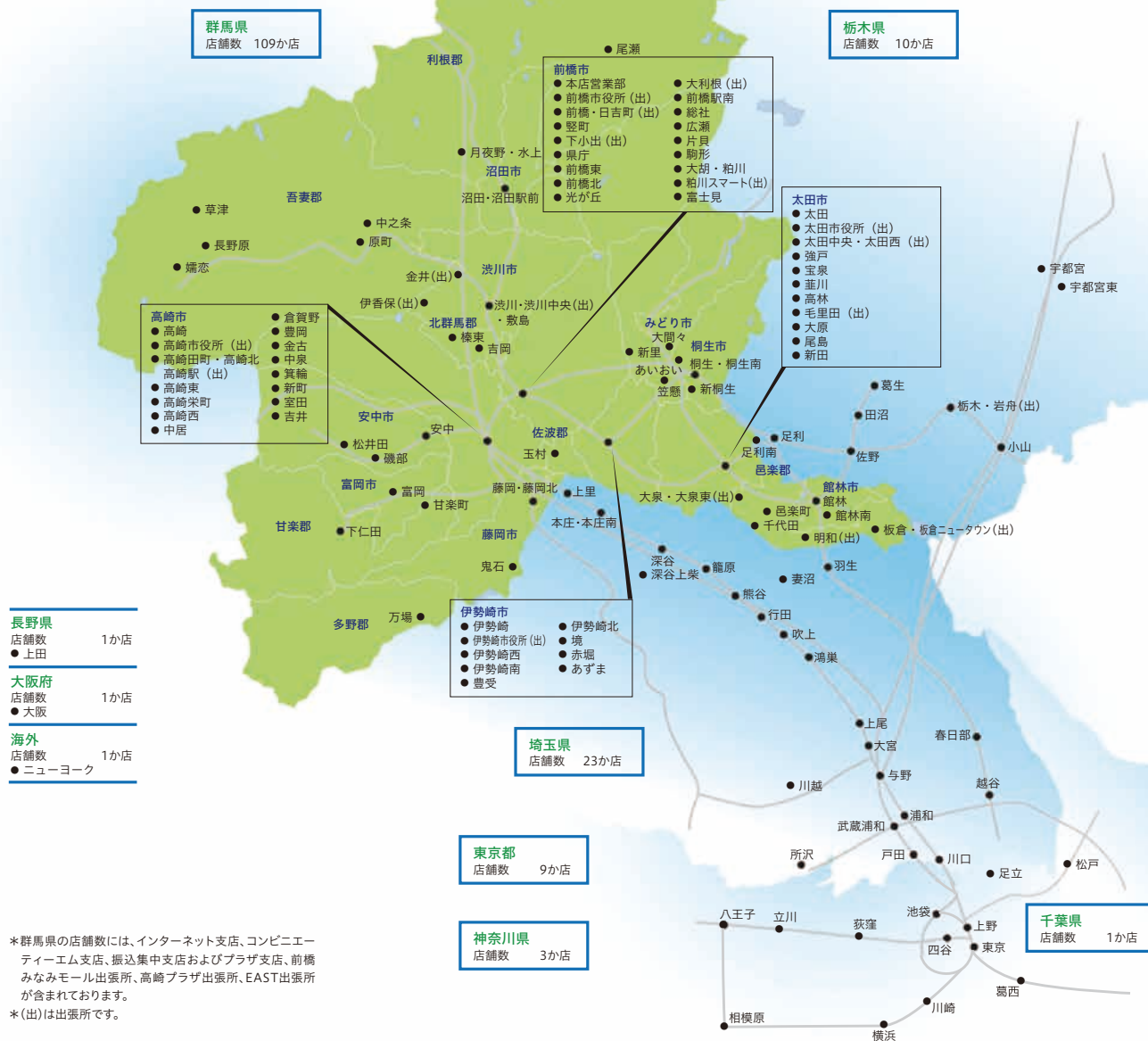
連結子会社等

会社名	*1	主要業務内容	所在地	設立	資本金 (百万円)	当行グループによる 議決権所有割合		
						(%)	当行所有	子会社等所有分
群馬中央興業 (株)	連・子	物品等輸送、現金自動 設備の保守管理業務等	群馬県前橋市 元総社町 226	1971 年 2 月 24 日	10	100.0	100.0	-
ぐんぎん証券 (株)	〃	証券業務	群馬県前橋市 本町 2-2-11	2016 年 2 月 12 日	3,000	100.0	100.0	-
ぐんぎん コンサルティング (株)	〃	コンサルティング業務 ベンチャーキャピタル業務	群馬県前橋市 元総社町 194	2018 年 4 月 18 日	100	100.0	100.0	-
群馬財務 (香港) 有限公司	〃	金融・証券業務	*2	1991 年 2 月 19 日	30 (百万米ドル)	100.0	100.0	-
ぐんぎんリース (株)	〃	リース業務	群馬県前橋市 元総社町 171-1	1973 年 10 月 1 日	180	100.0	50.0	50.0
群馬信用保証 (株)	〃	保証業務	群馬県前橋市 元総社町 194	1983 年 9 月 28 日	30	100.0	45.4	54.5
(株) 群銀カード	持・子	クレジットカード業務	群馬県前橋市 元総社町 194	1982 年 3 月 12 日	30	75.0	31.6	43.3
ぐんぎん システムサービス (株)	〃	ソフトウェアの開発販売	群馬県前橋市 元総社町 171-1	1986 年 7 月 26 日	30	75.0	20.0	55.0
スカイオーシャン・アセット マネジメント (株)	持・関	投資信託委託業務	神奈川県横浜市西区 みなとみらい 3-1-1	2014 年 11 月 25 日	300	15.0	15.0	-

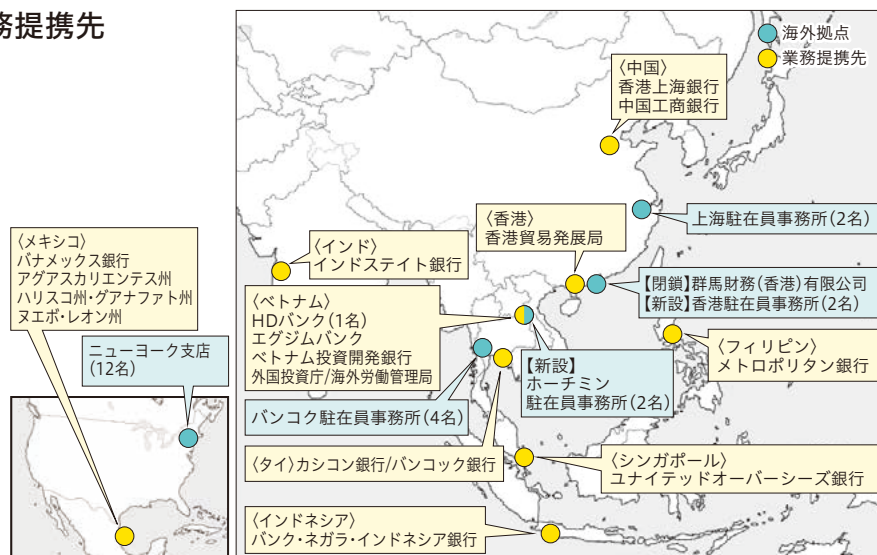
(注) *1: 連・子 (連結子会社)、持・子 (持分法適用子会社)、持・関 (持分法適用関連会社)
*2: 香港九龍チムサーチョイ 25 カントンロード ハーバーシティ ゲートウェイ タワー 1 608 号室

店舗の概要

(2020年6月30日現在)



海外拠点と業務提携先



※ 2020年10月にベトナム・ホーチミンに駐在員事務所を開設します。



群馬銀行 イメージソング
当行ホームページでお聴きいただけます。



<https://www.gunmabank.co.jp/info/song/>

公式 SNS でも、さまざまな情報を発信しています。



LINE ID :
@gungin



ユーザー ID :
@gunma_bank

発 行 2020年7月
編 集 群馬銀行 総合企画部広報室
〒371-8611
群馬県前橋市元総社町194番地
電 話 027-252-1111(代表)
